

## 銀座街づくり会議

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目6-1 銀座三和ビル3F

PHONE: 03-3567-1535 ● FAX: 03-3563-0236 ● <http://www.ginza-machidukuri.jp>● このNEWS LETTERは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています ●  
● 本誌の内容を、許可なく無断で複写・複製および転用・転載することを禁じます ●

今年もプロムナード銀座期間中の10月30日(金)に、銀座デザインフォーラムを開催しました。集まった方々は約160名。パネリストは、男女さまざまな世代を対象にした人気雑誌5誌の編集長・副編集長たち。いつ

も時代の流れを敏感に感じ取りながら街を歩き、特集テーマを組んでいらっしゃる編集者の方々は銀座という街をどんなふうに見ているのでしょうか。

プロムナード銀座2009 銀座街づくり会議シンポジウム



## 「編集者たちの見たGINZA」



今期より新しく全銀座会代表幹事・銀座通連合会理事長となった小坂俊幸さんの開会の挨拶でシンポジウムは幕を開けました。

パネリストは「家庭画報」副編集長・小松庸子さん、「グラツィア」編集長・温井明子さん、「ストーリー」編集長・山本由樹さん、「ハナコ」編集長・北脇朝子さん、「ブルータス」編集長・西田善太さんの5名。司会進行は銀座アートエクステンションスクールの山本豊津さん(東京画廊)が務めました。

最初に各誌が「銀座をどう見ているか」というテーマでお話がありました。「家庭画報と銀座の置かれている状況は似ている。それは、栄光の歴史にしがみついて守りに入っているのではないかということ。常に最先端を意識して取り入れなければリーダーの地位にはいられないし、トップは常に挑戦・開拓の気概を持っていなければならない。そして銀座が他の街と違うのは三世代で一緒に来られる街であること。下の世代に伝えてほしい」(小松さん)。「この10年で40代50代の女性は大きく変わり、『大人の女性』という新しい人種が生まれてきた。バブルを知らない世代の人たちがすでに30代半ばになっている。彼女たちは、年齢を重ねることがラグジュアリーになっていくという従来の考え方とは違い、もっと軽やかにカジュアルに私らしさを表現したいと考えている。昔の粋な男の人たちが銀座で遊んでいたように、これからは女性が銀座を遊び尽くすような提案をしていきたい」(温井さん)。「銀座はちょっとおめかしして、襟を正して来る街。そしてそこにいる人を素敵に見せるオーラを持った街。今、女性は元気が男性は疲れている。銀座はコンサバティブな街だが、男性はコンサバティブで変わらないところに惹かれる。もっと男性の町歩きを」(山本由樹さん)。「他の街とは全然違う風格や文化があって、その文化の中で、今の時代

との戦いをしている街。文化と歴史を、自分のお財布の手に届く質感、それを品と本質をなくさずに提供できるバランスがうまくできるといい」(北脇さん)。「変わらない街には習慣が必要。子供の頃、銀座に行ったことがあると入りやすい。子供が繰り返されるようなことがあると良い」(西田さん)。

銀座は明治煉瓦街以来、西洋文化を日本に紹介するショーウィンドウの役割をしてきました。しかし、これからはもっと銀座から情報発信をしていく時代になったのではないのでしょうか。山本さんの問いかけに、それぞれがお答えくださいました。

「新しいものをシャッフルし濾過していくのも銀座の魅力なのでは? しかし老舗の伝統のパワーは絶対になくさないでほしい」(小松さん)。「今の30代以下の人たちは、和の文化に興味がある。和洋の文化をアピールできるのは銀座の強み。世代をこえてもっと伝えるべき」(温井さん)。「自ら情報発信する必要はない。変化をどう受け入れるかということだけをきちんと考えて欲しい」(山本由樹さん)。「ライフスタイルや情報が変化しても、街の構築によって根付いた文化は変わらない。今銀座が持っている良さをもっと愛してかわいがってあげると、ちゃんと伝わる。銀座としてのプライドを持ち続けて欲しい」(北脇さん)。「親が子供たちを招き入れて恥ずかしくない街が銀座。変わらない良さが強調されているが銀座は実際、否応なく変化している。今の20代は“懐かしさ”を僕らと同じ感覚で受けとめていないということは覚えておいた方がよい」(西田さん)。

最後に山本さんは「銀座は商人の街。商人は誰にでも気楽に声をかける。そういう銀座商人のスタイルが行われていけば、何か変わろうと銀座の魅力は残っていくのではないかと締めくくりました。

当日の議事録を作成中です。完成はHPでお知らせします